

全国障害者問題研究会 北海道支部
第35回 夏期学習会 開催要項
2013. 9. 7~9. 8

まなびあおう発達保障のリアル
～ヒストリー・ハート・アクション～



第35回全障研北海道支部夏期学習会
開催実行委員長

大澤 真平

(札幌学院大学 人文学部人間科学科)

今年も、札幌学院大学を会場に、北海道支部の学習会を開催させていただき運びとなりました。私は、ふだん子どもの貧困や虐待の問題に取り組んでいます。そのなかで思うことは、子どもの発達や教育の保障には、大前提として当たり前の生活が必要だということです。まさに「暮らし」なくして「そだち」なしです。ところが現実には、子どもや家族の個々の生活への視線を抜きに、いかにてっとり早く学力を高めるかというような技術論や抽象論ばかり飛びかっています。そういう点で、これまで「暮らし」と「そだち」を切り離すことなく考えてきた全障研の学習会は、私たちが地に足をつけて何をすべきか、本当に大切なことは何か、それを改めて感じさせてくれることでしょう。時を重ね35回目を迎える今年度も、実りある学びの場になることを心から願っています。

■主催 全国障害者問題研究会北海道支部
第35回全障研北海道支部
夏期学習会開催実行委員会

■後援 北海道 北海道教育委員会
社会福祉法人北海道社会福祉協議会
札幌学院大学
(申請中のものを含む)

■とき 2013年9月7日(土)
8日(日)

■ところ 札幌学院大学
江別市文京台11番地
TEL:011-386-8111



■参加費■

	一般（非会員）	2013年度会員	学生
2日間参加	3,500円	2,500円	1,000円
1日のみ参加	2,000円	1,500円	500円

*保育の体制はありません。

全障研への入会を希望される方

申込用紙の送金内訳の全障研会員の欄に「3,000」と書き、年会費3,000円を添えてください。道支部会報年6回、全障研しんぶん年12回、各種研究案内がもらえます。

また、全障研の研究学習会参加費が割引になり、今回の夏期学習会も会員扱いになります。

■申込先■ 参加申込書に必要事項を記入し、下記へお申し込みください。

FAX・E-mail にて受け付けます。

E-mail zensyoken_doushibu@yahoo.co.jp

FAX 011-774-5731

■参加費入金方法■

①郵便振替 02720-7-16858 全国障害者問題研究会北海道支部

②銀行振込 北海道銀行花川支店（普）0030870

全国障害者問題研究会北海道支部 二通 諭（につう さとし）

③当日入金 当日受付にてお支払いいただけます。

■申込締切■ **9月2日（月）** *介助が必要な方の締切は**8月19日（月）**

*当日の飛び込み参加も歓迎いたしますが、資料がお渡しできない場合があります。

*昼食は各自でご準備ください。2日目はパンの販売《スワンベーカリー》を予定しておりますが十分な数量をご用意できない場合もありますので、ご了承ください。

■問い合わせ■

全障研道支部事務局携帯 080-3291-0300

■交通アクセス■



JRを利用する場合

札幌駅より、江別・岩見沢方面普通または快速に乗車、「大森駅」下車。

徒歩10分

バスを利用する場合

新札幌バスターミナルより

【JRバス】24大森11丁目行28野幌駅行き82文教通西（大森駅南口大先回り）83文教通西（札幌学院大先回り）など

【夕鉄バス】文教台行き・あけぼの団地行き・南幌東町行き・栗山行き・夕張行きなどに乗車。「学院大正門前」または「北翔大学前、札学院大前」下車。徒歩1～3分

1 日目 9月7日(土) G館

12:00 受付 (G館1階 S G Uホール前)
【全障研新刊等書籍販売しております】

13:00 開会式 (G館 S G Uホール)

特別報告 長期化, 高齢化するひきこもりの実態と支援のあり方
— 北海道におけるひきこもり生活支援に関わる実態調査から
田中 敦 (NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク理事長)

14:20 **記念講演** 「どうして? 教えて! 発達障害の理解」

～発達障害の理解と実践で大切にしたいこと～

講師 奥住 秀之氏

(東京学芸大学教育学部准教授 全障研常任全国委員)

〈奥住氏コメント〉

「発達障害ってどういう障害?」「どのような配慮や支援が必要?」保育所や学校でこうしたことばをよく耳にします。この講演で、発達障害の基礎理解、配慮や支援の原則などを共に学びましょう。発達保障の視点を大切にお話したいと思います。なお、全障研出版最新刊の『どうして? 教えて! 発達障害の理解』を併せてお読みいただくことで、学びをさらに深められると思います。ぜひ一冊お手元に置いてこの講演をお聞き下さい。

《奥住 秀之(おくずみ ひでゆき)氏プロフィール》

東北大学教育学部、同大学院 博士。東京都老人総合研究所勤務後、東京学芸大学赴任。専門は発達障害心理学、特別支援教育心理学。

主な著書(共著・編者含む)

「どうして? 教えて! 発達障害の理解」(2013)、「自閉症の理解と発達保障」(2012)「どうして? 教えて! 自閉症の理解」(2008)《全障研出版部》「発達障害児と学童保育」(2010) 茂木俊彦・奥住秀之他《大月書店》

16:00 **トークセッション** 記念講演を受け、道支部の2人の研究者を交えてのセッション
奥住 秀之(記念講演講師) 牧野 誠一(札幌学院大学)
小淵 隆司(北海道教育大学釧路校)

17:10 全国障害者問題研究会北海道支部総会
(G館5階会議室)

18:00 **特別講座** 発達保障論の源流を訪ね、過去と未来に橋を架ける(第1回)

子どもたちを前にあなたはどのような「絵コンテ」を描いていますか?

障がい児教育創始者、エデュアール・セガンが描いた「絵コンテ」
基礎となった1820年代の比較解剖学、両眼視機能の成立をめぐる問題。

講師: 藤井 力夫(元北海道教育大学教授・全障研全国委員)

司会: 二通 諭(札幌学院大学)

この企画を発案したのは私こと二通と北大の間宮正幸先生です。今こそ発達保障論を源流に遡って学ぶべきではないか、との思いを強くしたからです。源流となれば、今冬話題の映画「レ・ミゼラブル」が描いた1830年のフランス七月革命から1848年の2月革命を駆け抜け、障害児教育等の先駆者として、石井亮一やモンテッソーリらにも影響を与えることになったセガンに行き着きます。セガン研究を続けておられる藤井先生と共に、発達保障論の生成と展開、精神をみんなで深め、学び合ひましょう。(二通)

私たちは、発達保障という概念を狭くとらえていないでしょうか。広く、世界の教育学・心理学、医学、福祉学などの深遠な源流まで遡ってつかんでいくべきだと思います。19世紀初めにフランスで活躍し、後にアメリカに渡ったセガンは、その後の、アンリ・ワロンなどによる児童精神医学の発展にも貢献しました。今や、フランスは、2千人の児童精神科医を擁するすぐれた子どもの権利と教育に関する知恵をもった国になっています。講座は、そのことを知るよい機会となるでしょう。(間宮)

20:00

2日目 9月8日(日)

A館3階

《講座1～5・分科会6～8》10:00～15:00(休憩12:00～13:00)

分科会・講座名	主な内容	講師・発表者(敬称略)
1 今日から算数大好き!!	算数が苦手、嫌いと思っている子どもたちをなんとかしたいと願っている貴方に、楽しく学べる教授法をお教えします。今年も楽しい教材をたくさん用意しています。	桜庭喜美雄 (札幌市立南の沢小学校・再任用)
2 労働と発達保障	午前中は映画「働くなかでたくましく」「いのちのことづけ」上映と小講座。午後は、障害者総合支援法をはじめ障害者差別解消法、障害者雇用促進法、精神保健福祉法、道路交通法など、第183回通常国会での審議が諮られた諸法と関連制度の動向について参加の皆さんと考えます。	北村典幸 (社会福祉法人あかしあ労働福祉センター理事)
3 学生・新人職員に向けた「発達保障入門講座」	仕事や子育てなど、子どもの発達にかかわるすべての人を対象とした「発達保障入門講座」です。実践レポートをもとに、実際の子ども姿を通して、子どもの発達と発達保障について考えます。その後、講師からの解説、参加者による意見交流を行います。日常の子どもの言動から見える発達とは何か。そこにある子どもの願いや悩みは何か。私たち大人はどのように向き合い、かかわるのか。保育所や学童保育、学校における実践・子育てにもつながる「発達保障論的子ども理解」を深めましょう。	戸田 竜也 (北海道教育大学釧路校) レポート:市橋博子 (釧路養護学校)
4 就学前の子どもたち～発達保障とわらべうた～	発達に関する心配や障害のある幼児の支援について、様々な場で展開される実践報告から、今の子育て事情を探ります。時代の変化に対応する必要性や時代が変わっても変わらない普遍性などについて考えます。また、各発達レベルの代表的なわらべうたあそびを体験し、社会性の発達の土台となる共振・共感の世界を味わってください。	加藤芳則 (札幌市立手稲山口小学校) 助言者 小淵 隆司 (北海道教育大学釧路校)
5 重症心身障害児・者のくらし・まなびと健康体操	「からだをほぐす」ため「元気が暮らしを送るため」の実践を体験からスタートします。その後、ご本人やご家族が在宅生活の中で大変に思ったこと、実際のくらしで感じる楽しいことなどをご家族の立場から、率直に話題提供いただきます。報告等をもとに参加された皆さんとともに「障害の重い人のくらし・まなび」について考えます。	落合裕昭 (サポートセンター ノンノ顧問・健康体操 アドバイザー) 花香 真宣 (小児科医・保護者)
6 学齢期の発達保障と特別支援教育の諸課題	個別の教育支援計画の問題および3年目となるPDCAサイクルの問題点と克服のキーポイントについて、報告を交えながら討論します。	特別支援学校・学級の教職員の皆さん
7 「私の悩み、私の工夫」をみんなで話し合おう(A4レポートでエーよん!)	この分科会の魅力は、ズバリ「講演を聞く受け身型の参加から、A4レポート一枚を書く主体的参加型になることで自分の考えを整理し、いろいろな意見を聞き実践をまとめ、深めることが出来る」ことです。当日レポート持ち込み大歓迎!みなさんで悩みや工夫を持ち寄って語り合しましょう。レポート～「高等養護学校の部活動の取り組み」「訪問教育での本物を取り入れた実践～フェイターズとラジオ放送～」「ヴィゴツキーに学ぶ」「明日の授業に活用できるゲーム」など	全障研帯広サークル & 釧路サークル
8 三大テーマく精神障害の裏にある発達障害・ひきこもり・人格障害を考える	発達障害、愛着障害、人格障害、精神障害、ひきこもり等について、その関連性に着目しながら、支援のあり方を総合的に考えていきます。とりわけ家族の問題と実践上の課題に光を当てます。今回は、特別ミニ講演として、「僕(私)は性同一性障害かもしれない!？」と悩む子ども、「わが子は性同一性障害かもしれない!？」と危惧する保護者が増えてきた現状をふまえ、日野さんから「自分の性別に揺らぎを抱く子どもたち」と題するお話を頂きます。	長沼 睦雄 (道立緑ヶ丘病院) 田中 敦 (NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク理事長) 日野 由美 (HIS札幌ミーティング代表 性的少数者教職員ネット) 山本 博子 (ハローワーク札幌 みどりのコーナー) 二通 諭 (札幌学院大学)

